

令和元年11月11日

広島信用金庫

令和元年度 上半期業績 について

広島信用金庫（理事長 武田龍雄）の令和元年度上半期業績につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 令和元年度 上半期業績概要

(1) 業容について

預 金	1, 434, 862百万円	（前期比 23,932百万円増 1.6%増）
貸 出 金	946, 891百万円	（前期比 1,535百万円減 0.1%減）

預金は、内容の充実を第一に、地域に密着した営業活動を推進してまいりました結果、31年3月末比 239億円増加し、1兆4, 348億円となりました。

貸出金は、地域経済の活性化のため、きめ細やかな融資対応に努めてまいりましたが、31年3月末比 15億円減少し、9, 468億円となりました。

(2) 利益について

経 常 収 益	11, 299百万円	（前年同期比 108百万円増 0.9%増）
実質業務純益	1, 701百万円	（前年同期比 307百万円減 15.2%減）
コア業務純益	1, 701百万円	（前年同期比 295百万円減 14.8%減）
経 常 利 益	1, 523百万円	（前年同期比 187百万円増 14.0%増）
当 期 純 利 益	1, 162百万円	（前年同期比 141百万円増 13.9%増）

貸出金利息収入は減少しましたが、受入手数料の増加や株式等売却益の計上等により、経常収益は、前年同期比1億8百万円増収の112億99百万円となりました。

また、コア業務純益が前年同期比2億95百万円減益の17億1百万円となった一方で、経常利益は1億87百万円増益の15億23百万円、最終利益である当期純利益は、1億41百万円増益の11億62百万円となりました。

(3) 不良債権の処理状況について

資産のさらなる健全化をはかるべく、厳格な自己査定にもとづく不良債権の早期処理を行いました結果、令和元年度上半期における不良債権処理額は、9億59百万円（前年同期比8億37百万円増）となりました。

(4) 金融再生法による開示債権について

(金額単位：百万円)

	開示額 ①	担保・保証等 ②	貸倒引当金 ③	保 全 率 (②+③) / ①
破産更生債権等	3,899	1,083	2,816	100.0%
危 険 債 権	22,336	12,689	5,247	80.3%
要 管 理 債 権	848	391	14	47.8%
小 計	27,085	14,165	8,077	82.1%
正 常 債 権	923,503			
合 計	950,588			

金融再生法上の不良債権額は、270億85百万円（31年3月末比12億48百万円増、4.8%増）、不良債権比率は、31年3月末比0.13ポイント上昇の2.84%となりました。なお、不良債権額のうち82.1%は、担保・保証および貸倒引当金により保全がはかられております。

(5) 自己資本比率（国内基準）について

自 己 資 本 総 額	99,320 百万円
コア資本に係る基礎項目	101,609 百万円
コア資本に係る調整項目	2,288 百万円
リ ス ク ア セ ッ ト	804,604 百万円
自 己 資 本 比 率	12.34%

自己資本比率は、31年3月末比0.15ポイント上昇の12.34%となり、引き続き、国内基準の4.0%を大きく上回っております。

(6) 令和元年度決算予想（令和2年3月期予想）

- ・ 経 常 利 益 25 億円程度
- ・ 当 期 純 利 益 20 億円程度
- ・ 自 己 資 本 比 率 12 %台
- ・ 不 良 債 権 比 率 2 %台

【お問い合わせ先】 経営企画部 広報室 TEL 082(245)0030